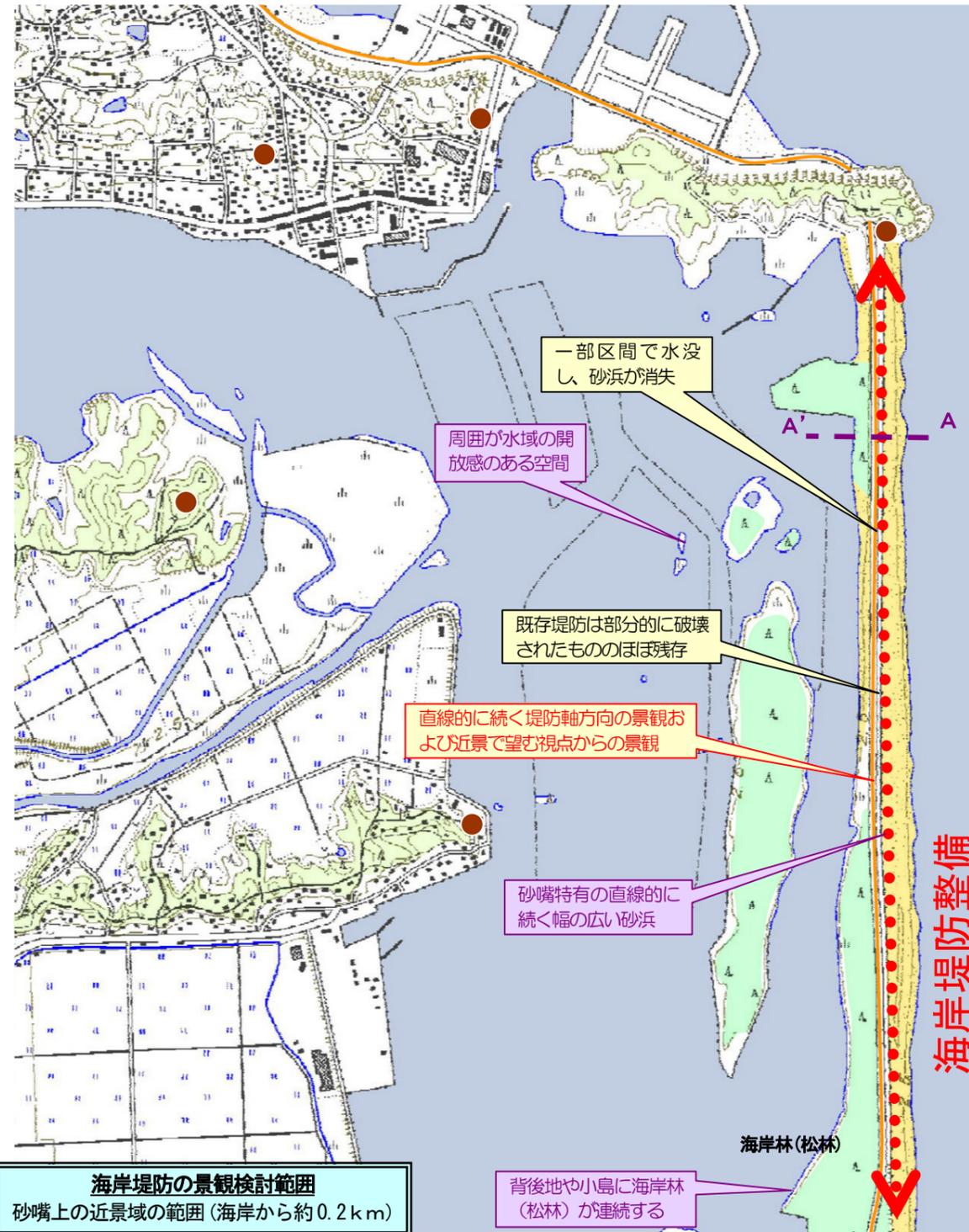


《地区の概要》

地区特性



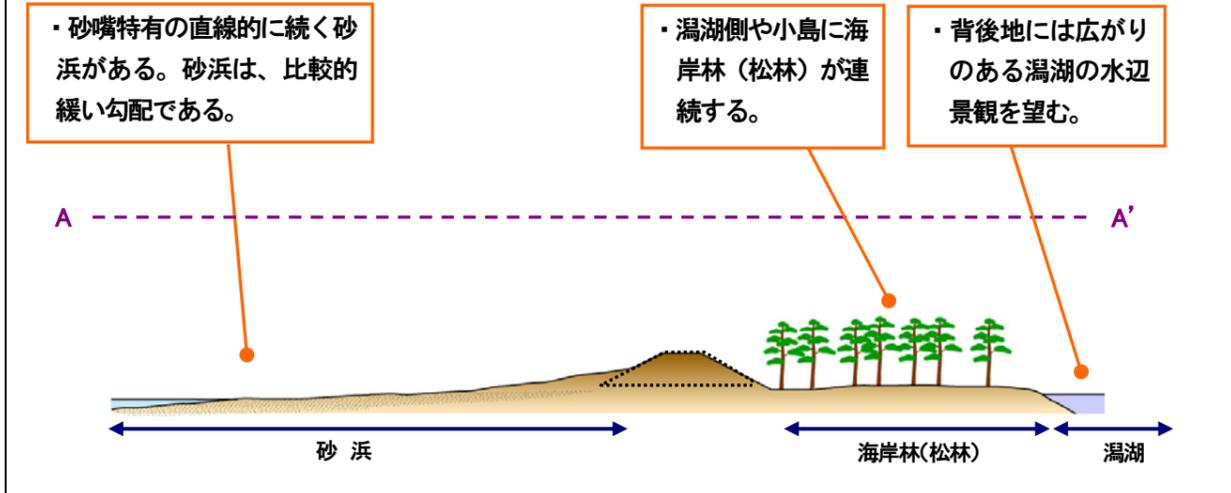
海岸堤防の景観検討範囲  
砂嘴上の近景域の範囲(海岸から約0.2km)

景観特性

- ・砂嘴は、周囲が水域の開放感のある空間であり、直線的に続く幅広な砂浜が特有の景観を形成する。
- ・海岸堤防は内陸からはほとんど視認できないため、砂嘴上から直線的に続く堤防軸方向の景観と、それらを近景で望む視点が重要となる。
- ・直線に長く続く構造物の出現により、単調な景観となる。
- ・観光コースとして利用性が高く地域のシンボルとなる空間であり、砂嘴という地形を活かした広がりのある景観を視覚的に活用することが望まれる。

地形基盤と地域の成り立ち

地形断面図(A-A')

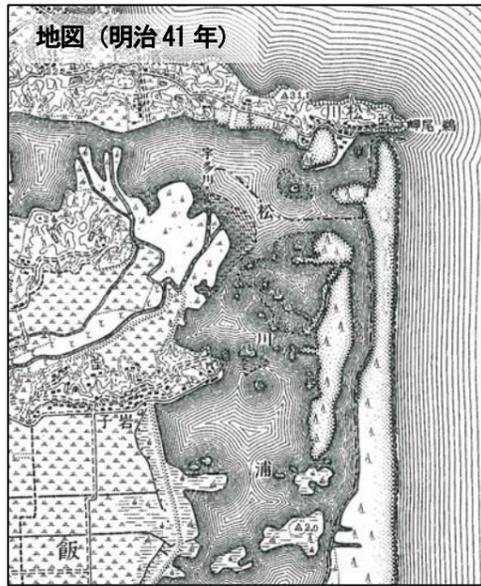


被災前の堤防の状況



- 凡例
- 役所
  - 神社・仏閣
  - 鉄道駅舎
  - 主要道路
  - 地形による景観特性
  - 被災による景観変化
  - 施設の景観特性

《地区の概要》



地形・生態系特性

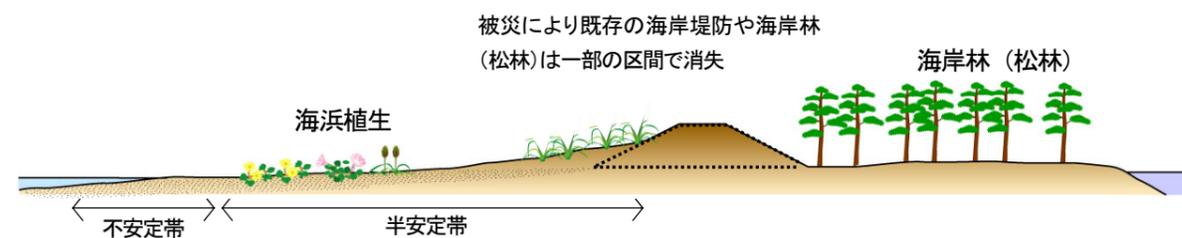
- ・明治時代の地図は現在よりも地形が複雑で、曲線的な地形が形成されていた。また、岬と砂嘴は陸続きになっていなかった。
- ・海岸付近に見られる植生は、主にクロマツ林であり、部分的にススキ群落が分布している。
- ・被災後、一部の区間で水没し砂浜や既存の海岸堤防が消失している。



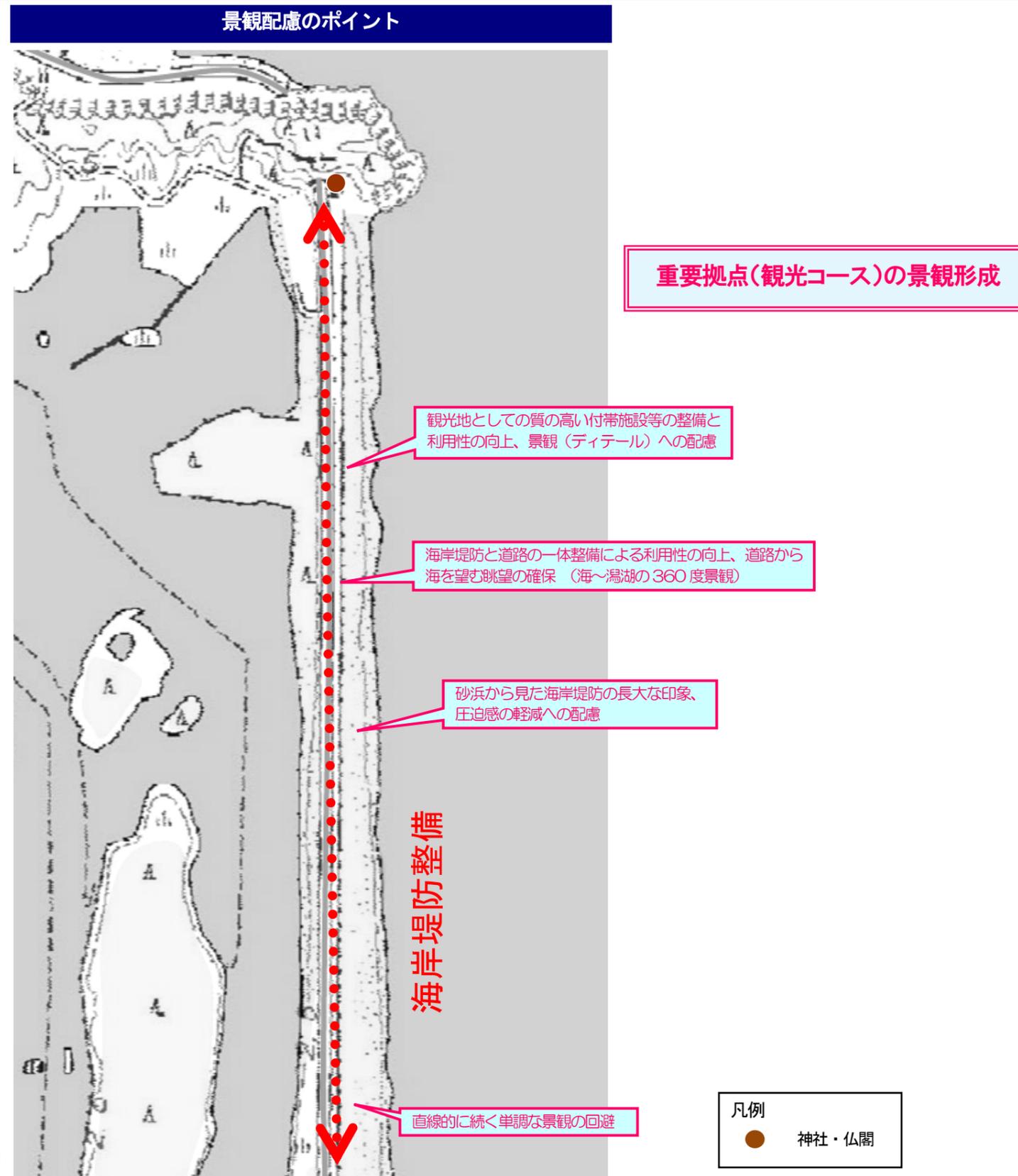
植生図 凡例（抜粋）

凡例色	植生図凡例番号	統一凡例番号	統一凡例名
黄色	14.250200	ススキ群落 (V)	
青	28.480000	塩沼地植生	
茶	29.490000	砂丘植生	
茶	31.540300	クロマツ植生	
茶	33.540902	ニセアカシア群落	

生態基盤



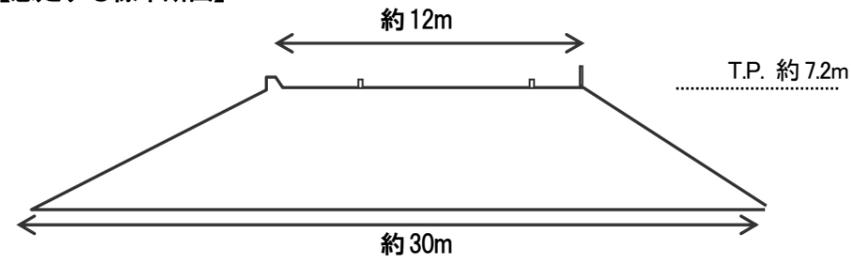
《景観配慮のポイント》



《検討条件と検討対象パターン》

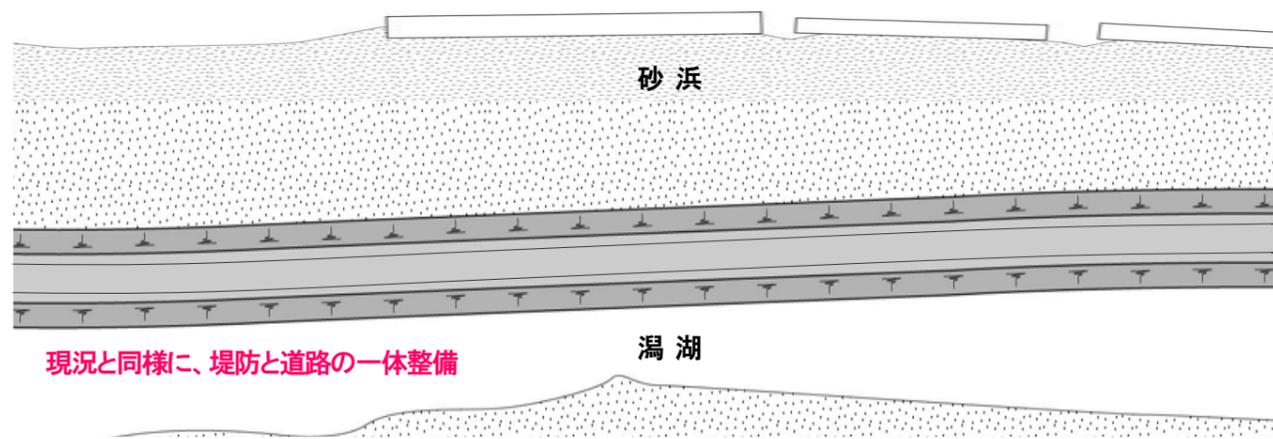
検討条件（施設構造）

海岸堤防【想定する標準断面】



- ・被災前の標準断面を踏襲
- ・高さ T.P.=約 7.2m、堤防敷 W=約 30m の大規模な構造体を想定
- ・天端は約 12m を想定
- ・法面勾配は表 1:2、裏 1.1:1.5 を想定
- ・表裏法面はコンクリート構造

海岸堤防【想定する平面面】



まちづくり計画

- ・津波浸水区域においては、新たな土地利用を検討する必要があるため、今後の防災対策や、住民意向などをもとに、今後の土地利用計画について検討を行います。
- ・津波浸水区域のうち、家屋流出等、甚大な被害を受けた地域については、職業領域と居住領域を分離する方向で、今後の土地利用を考えていきます。

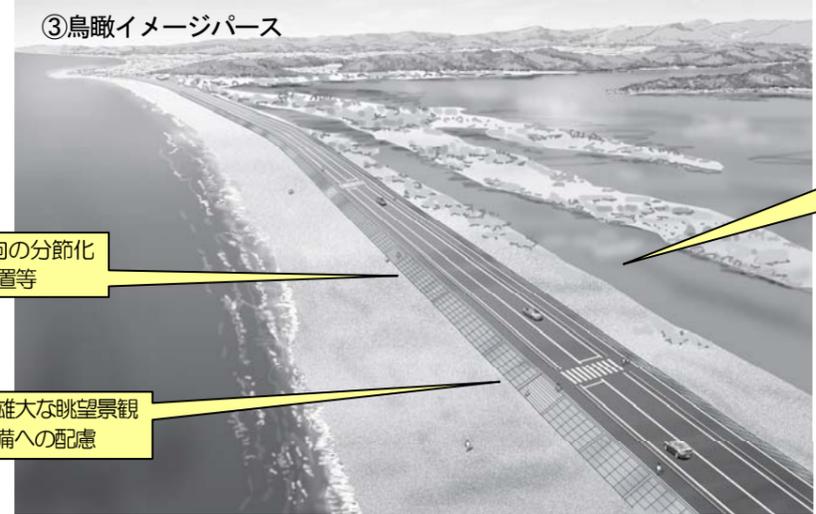
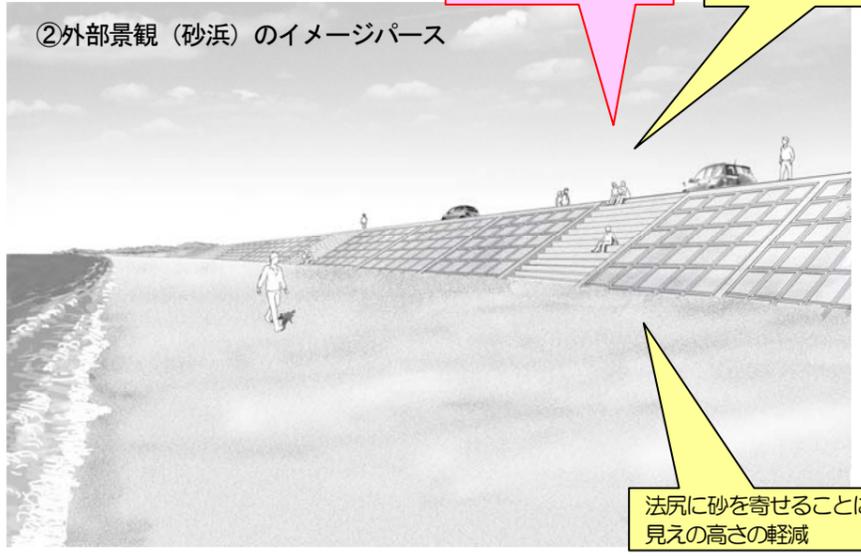
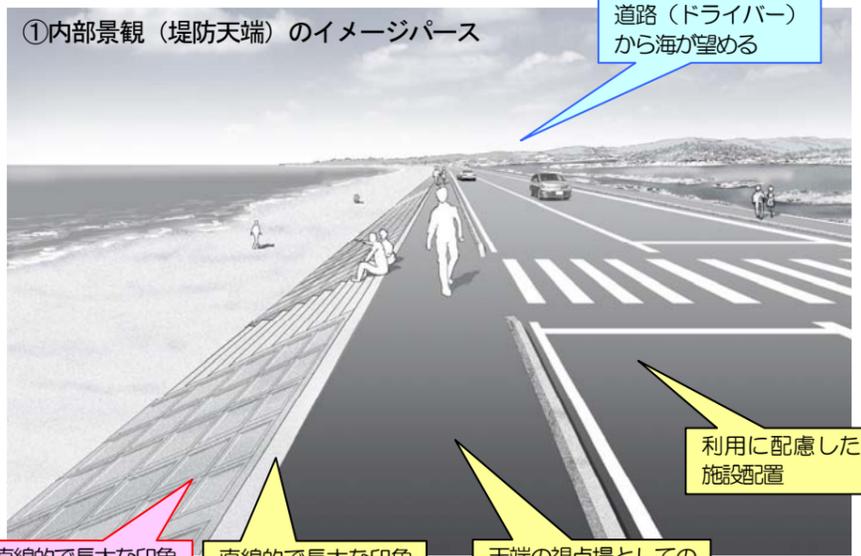
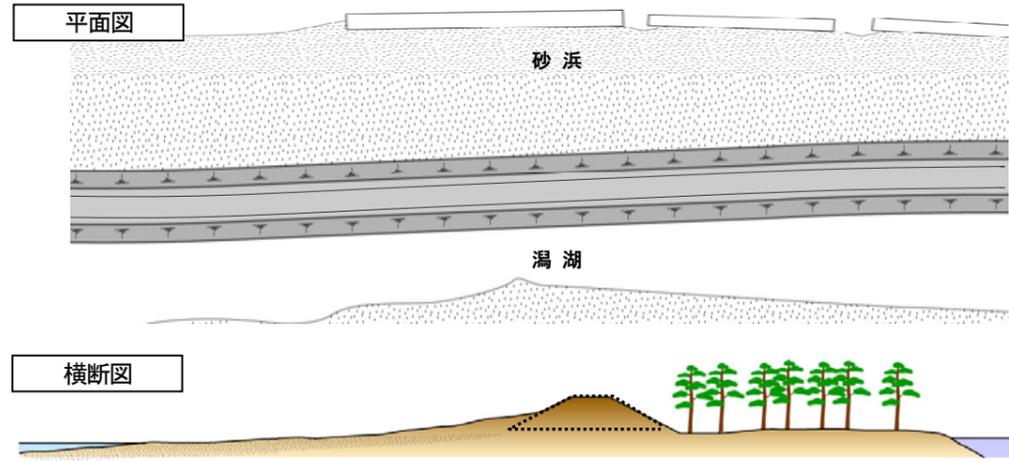
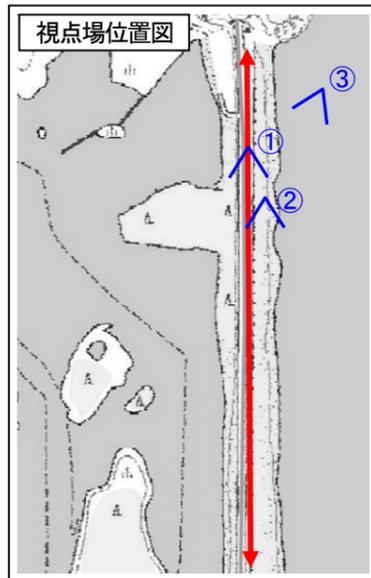


出典：土地利用計画（案）

天端および階段の利用イメージ



《具体的な景観配慮例》



直線的で長大な印象  
直線的で長大な印象の軽減  
天端の視点場としての活用への配慮

直線的で長大な印象、圧迫感  
法面処理等による長大な印象、圧迫感の軽減

法尻に砂を寄せることによる見えの高さの軽減

海岸、砂嘴、潟湖と続く自然地形に応じた生態系の保全・復元が課題となる

利用および法線方向の分節化に配慮した階段の設置等

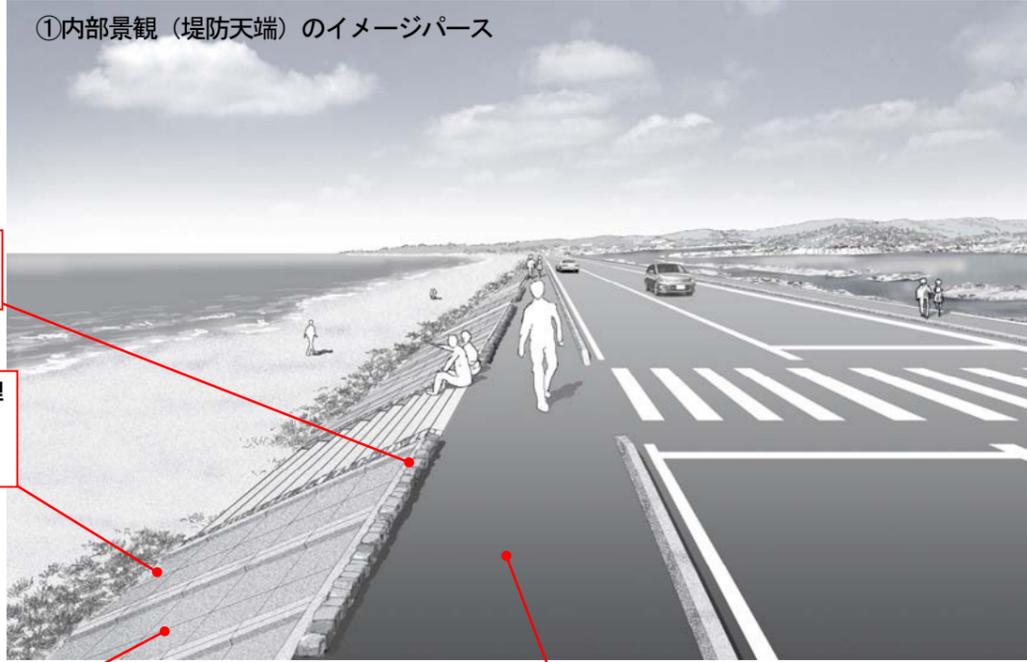
海岸と潟湖を望む雄大な眺望景観を活かした施設整備への配慮

- 吹き出しの凡例
- : 長所
  - : 短所
  - : 配慮事項

	特徴・評価
視覚的景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路（ドライバー）から砂嘴の特徴的なパノラマ景観を望める。</li> <li>水平方向に長い直線形状により構造体の存在感が強調され、直線の長大な印象を与える。</li> <li>法面処理の工夫等により長大な印象、圧迫感の軽減が不可欠となる。</li> </ul>
地域性	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続する雄大な砂嘴の特有の景観を眺めることのできる眺望視点として、天端の利活用への配慮が必要となる。</li> <li>観光コースとしてのトータルデザインに配慮する必要がある。</li> </ul>
生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>海岸、砂嘴、潟湖と続く自然地形に応じた生態系の保全・復元が課題となる。</li> </ul>
サステイナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂嘴特有の自然地形を活かした持続的な観光資源の活用の可能性がある。</li> </ul>
コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要拠点（観光コース）として、質の高い法面処理等を行った場合、コスト高になる可能性がある。</li> </ul>

《具体的な景観配慮例（細部デザインへの配慮）》 景観配慮後のイメージ

①内部景観（堤防天端）のイメージパース



天端コンクリート(法肩部)や階段帯工に自然石を活用し、柔らかい印象を与える

自然風に見せるための石垣風の表面処理やペインティング等の装飾を行ったりせず、縦のリブ模様によりシンプルに見せる

- ・縦のリブ模様<sup>※1</sup>が強調されることにより、“安定感、支える感覚”を表現できる<sup>※2</sup>とともに、法面に陰影が生まれ明度を抑える
- ・均等な間隔での分節化が視覚的なリズム感を生み、長大な印象を軽減する

※1 パースは縦のリブ模様を凸にした場合  
 ※2 “構造物が背後地を防御し、支えている”という本来の機能を伝えることを念頭としたシンプルなデザインの考え方

天端舗装は、石張り等で自然風に見せたり、ペインティングやカラー舗装等の装飾は行ったりせず、維持管理や利用性に配慮してシンプルなコンクリート被覆またはアスファルト舗装(脱色アスファルトを含め)とする

- ・階段等は装飾を行わず、シンプルな形状とする
- ・手摺りを設ける場合は中央に設置し、収まりに配慮する

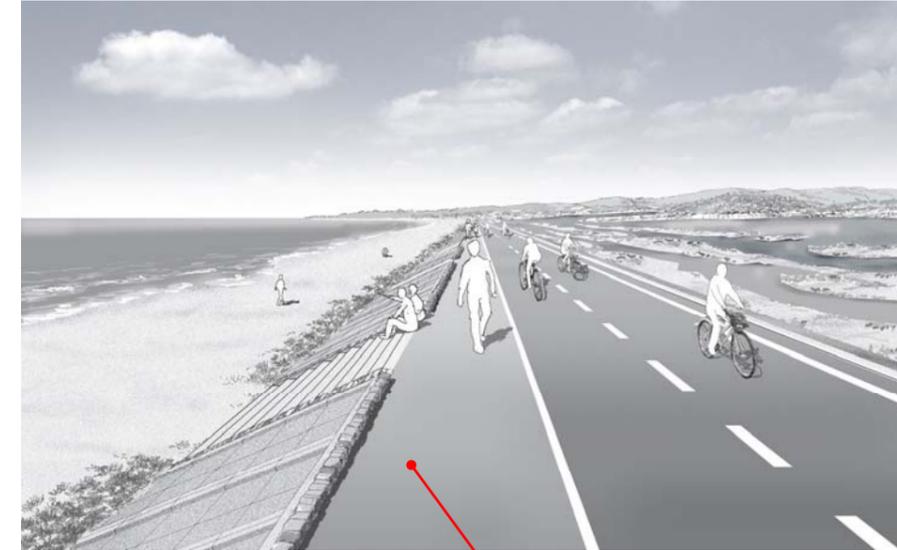
②外部景観（海側）のイメージパース



法尻に砂を寄せることで、見えの高さや直線的な印象を軽減できる(ぼかし効果)

(参考) 堤防上をサイクリング路として整備した場合

砂嘴特有の自然地形を活かした持続的な観光資源の活用可能性がある



天端を舗装する場合は、脱色アスファルト等で自転車道と区分し分節化を図る

階段は、縦のリブ模様の役割と同様に、堤防法面にリズム感を与えるよう配置するものとし、目立たない幅員とする(幅員の目安: 主要なアプローチ部 4~6m 程度、天端と砂浜の昇降用 2m 程度)

③鳥瞰イメージパース

